

## 平成24シカ年度 知床岬地区における仕切り柵を用いたエゾシカ捕獲事業の検討

### 1. エゾシカ個体群の現状(知床岬地区)

平成23シカ年度は仕切り柵の効果もあり、216頭捕獲した。これは捕獲前の2月29日に実施した航空センサスカウント結果265頭の81.5%にあたり、表1のとおり、過去5年間ではもっとも残存個体数は少数と考えられ、越冬群にこれまでにない打撃を与えたものと思われる。

次期についても、今期並みの捕獲圧をかけることを目標としたい。

表1. 航空センサスカウント数とセンサス後の捕獲数

	H19シカ年度	H20シカ年度	H21シカ年度	H22シカ年度	H23シカ年度
カウント数①	447	399	374	246	265
センサス後捕獲数②	99	72	158	57	216
①-②	348	327	216	189	49

### 2. 平成24シカ年度 捕獲事業内容(知床岬地区)

H23年10月に完成した捕獲用仕切り柵を用いることで効率的な捕獲が可能になったことを受けて、回数を流氷期前後に各1回程度、人員を15人程度と、回数、人員規模を縮小し、効率性を追求した。

目標捕獲数については次回航空センサスの80%とするが、現時点での目標は今年2月のカウント数265頭から捕獲数216を引いた49頭以上を目安とし、航空センサス実施後目標を補正する。

以下、AからCパターンまで3案提案する。捕獲強度、コストは共にA>C。

#### 2-1. Aパターン:流氷期ヘリ捕獲+流氷期後中規模捕獲+流氷期後回収1回

- 期間: 2月中旬～3月上旬、3月中下旬～4月に各1回。日帰りでの捕獲。
- 人員規模: 15人程度の中規模隊
- 実施方法: 西区画(灯台から文吉湾へ追い込み)、東区画(海岸からフクジュソウ囲い柵への追い込み)
- 死体回収: 捕獲後各1回ずつ10名程度で回収作業を行う。
- 特記事項: 捕獲強度大だが、コストも大。但し、流氷の影響を受けないため、確実に実施可能。捕獲前に航空センサスが実施できる。

#### 2-2. Bパターン:流氷期前後各1回中～大規模捕獲 +捕獲後回収各1回

- 期間: 11月下旬～12月上旬、3月中下旬～4月に各1回。日帰りでの捕獲。
- 人員規模: 15～20人程度の中～大規模隊

- 実施方法： 西区画(灯台から文吉湾へ追い込み)、東区画(海岸からフクジュソウ囲い柵への追い込み)
- 死体回収： 捕獲後各1回ずつ10名程度で回収作業を行う。
- 特記事項 流氷の状況によっては流氷期前後2回の捕獲できなかつたり、捕獲時期が遅れ、捕獲効率が低下する場合も考えられる。  
航空センサスが1回目の捕獲より後になる。

### 2-3. Cパターン:流氷期後1回中～大規模捕獲+捕獲後回収1回

- 期間： 3月中下旬～4月に1回(流氷明けが遅い場合3月実施は不可能の場合もあり得る)。  
日帰りでの捕獲。
- 人員規模： 15～20人程度の中～大規模隊
- 実施方法： 西区画(灯台から文吉湾へ追い込み)、東区画(海岸からフクジュソウ囲い柵への追い込み)
- 死体回収： 捕獲後1回10名程度で回収作業を行う。
- 特記事項 流氷の状況によっては捕獲時期が遅れ、捕獲効率が低下する恐れあり。  
捕獲前に航空センサスが実施可能。

### 2-4. 知床岬海岸段丘 厳冬期航空カウント

- 期間： 1～2月

表3. 平成24シカ年度の知床岬地区における仕切り柵を用いたエゾシカ捕獲事業（案）

		8～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
		仕切り柵 補修等			時化の激しい期間		流水期	猛禽繁殖期	仕切り柵補修等	
実施手法	モニタリング					航空カウント1回				
	●Aパターン 流水期へり捕獲(15人程度) +流水期後中規模捕獲(15人程度) +流水期後回収1回 いずれも日帰り。						へり捕獲 日帰り 捕獲1回	海明け後 日帰り 捕獲1回	死体回収約10人	捕獲強度 コスト
	●Bパターン 流水期前後各1回 中～大規模捕獲(15～20人程度) +捕獲後回収各1回 いずれも日帰り。			11月下旬～ 12月上旬 日帰り 捕獲1回	死体回収約10人			海明け後 日帰り 捕獲1回	死体回収約10人	流水の状 況によっ ては2回 実施困 難な場 合もあ り得 る。
	●Cパターン 流水期後1回 中～大規模捕獲(15～20人程度) +捕獲後回収1回。 いずれも日帰り。							海明け後 日帰り 捕獲1回	死体回収約10人	